

市民記者のページ

令和4年度を振り返って

市民の目線で、イベントや団体の活動などを紹介してくれた市民記者のみなさんに、1年間の活動の感想を伺いました。各号の「市民記者のページ」は、下記の二次元コードからご覧ください。



6月 蛍が飛ぶ水辺づくり 星野 道子 記者

蛍が飛ぶ水辺づくりの取組みを取材し、豊かな自然を守ることの大切さを感じました。新型コロナウイルス感染症は今も油断できない状況ですが、感染予防策を取りつつ、希望を持って前に進むとういう気持ちが強くなりました。

7月 三所線の面影を追う 館野 敏子 記者

たくさんの人に「忘れていたことを思い出したよ」と声をかけてもらい、思い出を振り返るきっかけになったことがうれしいです。また、関本公民館で開催された関本の歴史展示会に、市民記者のページを掲示していただきました。次年度も楽しく活動していきたいと思えます。

8月 キャンプ人気急上昇 中島 英雄 記者

キャンプに興味があり、宮山ふるさとふれあい公園を取材しました。記事を書くにあたり、実際にバーベキュー場を利用することで、公園のよいところを実感しました。記者の活動を通じて、筑西市の魅力に気づけることが楽しいです。次年度も楽しみながら活動したいです。

9月 不安を和らげる場 認知症カフェ

小島 正美 記者

年を重ねると周りに迷惑をかけたかと思いがちですが、取材中に聞いた「老いは誰にでもやってくる」の言葉に肩の力が抜けた気がしました。現在、記者になって3年目。他の記者さんにアドバイスをいただきながら、記事を完成させる過程がとても楽しいです。

10月 かつての下館の風景 和田 恵子 記者

下館のお祭り「ぎょん」について、私の幼少期の思い出をもとに記事を書きました。次年度は、人々の動きが活発になると考えられます。新たな日々に向け、前向きに明るくなるような筑西市の情報発信で、街の魅力を多くの人に伝えていきたいと思えます。

12月 親子の絆を深めるベビーマッサージ

大泊 知子 記者

取材中にお母さんと赤ちゃんのリラックスした姿を見て、触れ合いの大切さを感じました。優しい気持ちと手の温もりが心を癒し、人と人との心の絆を深めるのだと思えます。家族との絆をさらに強くするために、私も実践していきたいと思えます。

1月 鮭の人工ふ化事業 中木屋 宏 記者

鬼怒小貝漁業協同組合の「鮭の捕獲・採卵の見学会」を取材しました。70年続いている人工ふ化事業ですが近年、自然環境の変化などで母川回帰する鮭の数が減少しているとのことです。見学会や放流会は、これからも続いて行ってほしい行事だと思います。

2月 石倉西遺跡

島田 敏 記者

何の記事を書こうか悩んでいた時に、石倉西遺跡の発掘調査に出会いました。取材の中で、だれでも発掘体験に参加できることを知り、ぜひみなさんに伝えたいと思えました。体験を通して、筑西市のおもしろさを実感してもらえたらうれしいです。

3月 勤行川を彩る緑化活動 山口 信也 記者

「勤行川の花と緑と鮭を育て守る会」の活動を紹介しました。同会が整備する桜並木やコスモスはとても美しいですが、多くの努力と、次の世代につなげたいという熱い気持ちによって支えられていたことに気づかされました。これからも地域の活動を紹介していきたいです。



市民記者のみなさん